

2学期のスタートにあたって

学校長 杉森 伸吉

今年も一段と暑い夏を迎えたことで、ご家庭でもお子さんたちの体調管理等、例年以上にご苦労がおありだったことと拝察します。またそれ以上に、それぞれのご家庭で、素敵な夏休みの思い出を作ることができたことと思います。7月12日の終業式後の5、6年生臨海学校では、どのお子さんにとっても、悲喜こもごものさまざまなドラマがあり、どのドラマも、今後の大きな成長の基盤となる、貴重な体験だったと思います。自然の一部である海での遠泳体験は、運動体験であると同時に自然体験でもあります。自然体験を通じて、人間の力を超えた自然の偉大さを感じたり、変化する自然に対応する知恵を学んだり、自然体験にもさまざまな学習効果があります。

菊の園のメイン行事の一つである臨海学校後の8月は、教職員にとっても、多忙な1年間の中で、ホッと一息つける貴重な時間です。先生方にとっては、1学期を振り返りつつ、より充実した2、3学期のプランを練っていくための、貴重な時間だったと思います。いま、6年生の先生方は、「起承転結」を一つのキーワードとして、子どもたちの菊の園での生活に、メリハリのあるストーリーを持たせて、節目節目に集中力を高めて取り組めるように工夫しています。起承転結は各行事の中にもありますし、1年間の中にもあります。1学期を「起」とすると、2学期は「承・転」、3学期は「転・結」とみることもできるでしょう。2学期は開始早々にゆり組の秩父移動教室、10月中旬までの教育実習生の受け入れ、運動会、ゆり組（日本の公立学校で最初の国際学級）の創設50周年記念行事、菊祭り、などなどの重要行事がありますし、6年生はオペレッタなどの卒業に向けたさまざまな準備や活動も入り、いままで培ってきたリーダーシップや友情、チームワークの真価が問われる時期でもあります。これまで培ったトータル的な人間力を発揮し、さまざまな人生の大波や小波を乗り越えて、一段とたくましくなって3学期に向かっていってくれることと信じて応援しております。1年生から5年生の皆さんも、一つ一つの行事や日々の生活のなかで、さらに大きく成長し充実していく学期ですので、有意義な充実した2学期を送れるように見守っていきたいと思います。

人間の一生のなかで、幼児期から小中学校生の時期ほど、人間形成の基盤となる時期は、そうそう多くないのではないかと、思っております。この時期にどのような体験をし、どのような習慣を形成し、どのような考え方を身につけたか、どのような読書をしたか、どのような人と出会ったか、どうやって失敗を乗り越えたかなどが、大人になったときの一つの核になっていきます。そして、大人にとって流れる時間のスピードとは、比較にならないくらい、子どもたちは一瞬ごとに、さまざまなことを感じとり、吸収し、変化していきます。思うようにならないときも、真正面から立ち向かっていきます。ですから、わたしたちも、一瞬たりとも気を抜けないという緊張感を持っており、そうした姿を見守り子どもたちの姿からも学びつつ、日々の教育活動に携わることができることは、とても幸せだと感じております。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。